

平成27年第4回川本町議会定例会会議録

(第2日目) 平成27年12月 8日 午前9時30分開議

議 長

おはようございます。
定刻となりましたので、ただいまより本会議を開催します。

々

ただいまの出席議員数は8名であります。定足数に達しておりますので、会議は成立しました。

々

それでは、ただちに本日の会議を開きます。
本日の議事日程は、お手元に配布しているとおりです。

々

日程第1「一般質問」を行います。
あらかじめ申し上げておきますが、質問者は通告されました質問の全部につきまして最初、壇上で質問していただき、再質問以降は質問席にてお願いします。

答弁者は、議長において指定した項目についてのみ、登壇の上、答弁をしていただきます。更に2回目以降の答弁は、自席においてお願いします。

それでは、通告順に従い、順次質問を許します。

々

それでは、大畑議員の一般質問を行います。5番大畑議員。

5番
大畑議員

通告に従いまして、2件の質問を致します。私が子どもの頃に「一週間のご無沙汰でございました」という司会者がおりましたけれども、一週間じゃなくて一年間のご無沙汰でございまして、今回の質問を考えるにあたりまして、一年間のブランクはちょっと大きいなというふうに感じておるところでございまして、質問にうつらせていただきます。

最初の質問は、「川本町の今後の課題について」でございます。三宅町長は、町長就任後、川本町の課題にいろいろと取り組まれてきておられると思います。成果や進展があるものも見受けられますけれども、見えない物もあるのが実情でございます。今後の川本町としての課題をどのように捉え、どう取り組んでいかれるおつもりなのか、お伺いを致します。

2点目は、「財政状況と今後の展望を問う」という事で質問をさせていただきます。私が議員になった年度、私は平成16年の2月に補欠選挙で出ておりますので、その年度というのは平成15年度になる訳ですけれども、その決算で見ますと、地方債残高約68億3千万、基金残高約6億3千万でありました。樋口町長が8年間、町長をお勤めになった訳ですけれども、その後、三宅町長が就任された訳ですけれども、平成24年の2月に就任されたと思いますので、平成23年度の決算を見ますと、地方債残高38億2千万、

5 番
大畑議員

基金残高 14 億 5 千万円という状況で引き継がれた訳でございます。平成 26 年度決算では、地方債残高約 32 億 6 千万、基金残高 16 億 9 千万であり、町長が行政報告で述べられているように財政健全化計画における地方債残高抑制の目標は達成出来たようでございますが、27 年度には大変大きな予算を組んでおられます。今年度末には地方債残高も可成りの額になるだろうと思います。基金の状況もほぼ横這いという状況になっておりますけれども、今後どのような財政基準をもって取り組まれていくのか、この 2 点についてお伺いを致します。

議 長

それでは、大畑議員の「川本町今後の課題について」に対する答弁をお願いします。番外三宅町長。

番外
三宅町長

それでは大畑議員の、「川本町今後の課題について問う」のご質問にお答え致します。

私は、この 4 年間第 5 次総合計画を基本におき町政運営を行って参りました。また、町民の皆様の要望を集約して非常に平凡でございますが、安全、安心、活力という言葉をよく使わせていただきました。これも本町の大きな課題であります人口対策につながって参ります。そして、情報の共有、コミュニケーション、現場の 3 つを根底に置き、また行政を企業経営という思いで取り組んできたところでございます。

町の政策において、福祉、子育て支援、産業振興、教育等々いろいろな分野で継続した政策がありますが、全てに潤沢にお金を使い、すべての町民の皆さまに満足いただけるというのは非常に難しいことであります。また課題も山積しておりますので、良く事業を精査する中で、より一層選択と集中を行っていく事が必要であると考えております。

町の活力、経済をみますとつくづく「人口は力なり」と感じるころであります。本町の重要課題であります人口定住対策では、出会いから始まって、結婚、出産、子育て、そして仕事、住まいなどの総合政策をずっと打っていく継続が大切であるというふうに考えております。

また、川本町の魅力を発信していかなければなりません、発信の仕方にも、もう一つ踏み込んで川本町に住んだ場合の生活プレゼン、或いは地域おこし協力隊などには営農計画や半農半 X 等生活営農プレゼンでライフスタイルの提案を発信していく工夫が必要である、このように考えております。

また、これから交流人口を増やしていくことも大きな柱になって参りますが、町全体でおもてなしの雰囲気を作り出し接していくことが川本町のファンづくりにつながってくるものと考えております。

それでは、主な分野ごとに今後の課題に、どう取り組んでいくかを申し上げて参ります。

はじめに、まちづくり推進課関係でございます。定住人口対策を考えます時に、一番大きな問題は、まず、住まいと考え、定住促進住宅整備事業や住

番外
三宅町長

まいづくり応援事業に取り組んでいるところでございます。

この2年間で整備を進めて参りました、定住促進住宅につきましては、大変多くの要望をいただき、ニーズの高さを感じていると共に、移住・定住に結びつくものと確信し、事業を進めているところであります。

また、今年度、まいづくり応援事業の一つとして進めて参りました、民間活力を活用した定住促進住宅の整備につきましても、想定以上のニーズがあり、町内の良質な住宅整備を急速に進めることができ、移住・定住の促進に寄与するものと確信しております。

島根中央高校につきましては、皆さんご存知のとおり、生徒数の減少が続く状況にありましたが、野球部の生徒を中心に県外からも多くの生徒を迎える事ができ、高校をより一層魅力的にすると共に、一定水準の生徒数を確保する事ができております。

また、これらの活動の成果が見えてきた事により、野球以外にも自分の夢を実現するために、県外からも多くの皆様に注目して頂き、入学者数の増に結びつきそうな状況になっております。今後とも、地域の、川本の大切な高等学校としてあり続ける事ができるよう、高校や地域の皆さん方と連携して、高校の支援に取り組んでいきたいと考えております。

続いて、産業振興課関係でございます。

農林業を取り巻く課題としては、健康志向の高まりを受け、エゴマの機能性が注目される中、エゴマの生産拡大が喫緊の課題となっております。

県や研究機関の協力を得ながら、反収の向上と面積拡大を進めていくことが重要であります。

特に、面積拡大につきましては、遊休農地などを活用し、国の交付金を活用しながら基盤整備に取り組み、圃場の確保に取り組んでいきたいと考えております。

また、エゴマなど農産物を活かした6次産業化を推し進め、付加価値を高め、農業者の所得向上につなげていく必要があります。

町の6次産業化推進補助金につきましては、従来、ソフト事業のみを対象にしておりましたが、今年度から、ハード整備にも活用できるよう要件を緩和しております。引き続き、ニーズを把握し柔軟な対応をして、支援して参ります。

また、今後、農業者の高齢化が一層進んでいく中、担い手の確保が大きな課題となっております。

地域おこし協力隊制度などを活用しながら、新たな担い手を確保していく必要があります。就農前研修や定住定着を支援する半農半X支援事業の推進、就農者を受け入れる農家などと連携したサポート体制の構築、農地の集積など、担い手対策に努めて参ります。

続いて、健康福祉課関係でございます。

今後ますます高齢化が進んでいく中で、医療、介護、住まい、認知症など様々な問題が増加することが予想されます。こうした中、問題の解決にあた

番外
三宅町長

っては、地域包括支援センターの役割が重要になって参ります。

介護保険制度の改正に伴い、市町村が事業を実施することになる、介護予防・日常生活総合支援事業への移行に向け、町民同士の助け合いや生活支援の仕組みづくり、また、今後増加する認知症への対応など、このような課題に対して、地域包括支援センターを中心とする行政、医療機関、介護事業所等関係機関が連携して、町民の持っている助け合いの力を引き出し、町民が住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる、支援体制づくりを進めて参りたいと考えております。

次に、医療費の適正化でございます。

国民健康保険の医療費は、一人当たりの医療費が7年連続で県内で1番高い状況が続いており、本町の重要な課題であります。

医療費の抑制に向けては、平成30年から保険者の広域化が予定されている中、病気の予防、早期発見・早期治療、重症化予防を重点として、保健師が全戸訪問するなど、小さな町の強みを発揮した取り組みを行っていききたいというふうに考えております。

続いて、教育課関係でございます。

悠邑ふるさと会館の管理運営について、でございます。この会館は平成8年度に広域文化施設として建設され、町民が文化芸術に親しむ場として、また携わる方々の活動の場として、開館以降多くの方にご利用いただいております。このことは地域住民の活性化につながる施設としての役割を果たしてきているものと考えております。しかしながら、築後19年が経過し、設備の損傷などにより管理運営上不具合が生じている箇所もございます。また施設を構成する機器が耐用年数を経過していることや、システムのデジタル化などに対応していないなど、今後の健全な運営に対し支障が予測されております。そのため、平成26年度から大規模改修に取り掛かっており、舞台設備、空調、屋上の防水工事などを実施し、現在、照明設備の更新を行っているところであります。平成28年度以降は音響設備、建具などの修繕を行う予定としております。このような施設改修により、より一層広く町民が積極的に文化に触れていただく機会を提供し、会館の健全運営で利用者の要望に応えていききたいと考えております。

このような重要課題につきまして、少数精鋭の役場職員でございますので、報告、連絡、相談の報連相で全庁的な取り組みを常に言っているところでございます。職員が川本町の発展のためにモチベーションをいかに高め、新しい提案や意見を出しやすい環境を作り出すことが、町長としての大きな使命であると考えております。

以上、答弁と致します。

議 長

再質問ありますか。5番大畑議員。

5番

いろいろ述べられた訳ですけれども、議員に対する答弁とはちょっと思え

大畑議員 ない、町民に対する答弁のような気がするんですね。議員は、その程度の事は知っておりますので、もうちょっと突っ込んだ施策について述べていただきたかったですけれども。いろいろなハード部分については、これは予算さえ付ければ業者がやってくれる事ですから、だいたい7割から8割はその課題というのは片付く訳です。問題はソフトの部分でございまして、これがなかなか上手くいかない、どこの自治体も困っております。そこで私が、最近、多少進展が見られたかなという事について若干、質問をさせていただきます。まちづくり推進課長にお伺いしますけれども、定住促進住宅、最初3戸造りましたですね、三原に。その後はちょっと年度をおいて4戸、そして今、木路原に4戸建設中でございます。最初の3戸と、それから後の4戸、これは明らかに応募状況が違っていると思いますけれども、その要因はどのように捉えられておりますか。

議 長 番外左田野まちづくり推進課長。

番外左田野まちづくり推進課長 議員ご指摘のように、最初、建ちました3戸、これは21年度の予算の繰越で22年度に三原地区に建設した物の事だと思っております。それとこの2年で整備をしております4戸、4戸の8戸、確かに応募状況が非常に違っております。建物の経費については大きく違いは無いのですが、一番大きな物としては募集の仕方と言いますか、募集条件。例えば、家賃の設定。子どもさんが居られたら安く設定する。また将来的には自分の物に出来る可能性があるというようなところで、より魅力的な物とするような思い切った施策を取った事が、応募者の増には繋がっていったのではないかと考えております。

議 長 再質問ありますか。5番大畑議員。

5番大畑議員 住宅だけに限って言えば、そうなのかも知れませんが、その側面にはですね、子育て支援というものがあって、これは邑智郡は可成り進んでいる訳ですけども、市部に比べると差がついておりますね。そうすると市部に住んで居られる人間は、やはりそういう先ほど課長が仰った条件の中で考えた時に川本へ行った方が良いだろうという事も考えられる訳で、この私は3つだというふうに考えております。それからもうひとつ、最近、町有地の分譲が盛んに行われるようになっております。この要因は何だというふうに考えておられますか。

議 長 番外左田野まちづくり推進課長。

番外左田野まちづくり 先ほど仰って下さいましたように、確かに先ほどの住宅の件につきましても、同じ条件であれば川本で子育てをしたいと思っていただけるような、子

推進課長 育て施策と相まったのところだと思っております。その中で、今の町有地のご質問でございましたが、町有地の売却につきましても、同じ条件であれば川本にあって思っていたところっていうところで行って参りました。以前も、町有地の売却につきましては、合併処理浄化槽を設置されたり、太陽光発電をされたら、その分について建設費相当額をお戻しするという制度もございましたが、非常にこれは分かり難いこと、それからお徳感が非常に少ないという事がありまして、今年度から行っております住まいづくり応援事業の中で、住宅費の2分の1を上限にという事で、土地購入費を全額お返ししたり、子どもさんの数に応じて加算をして補助をするという制度を行いまして、より魅力的な物というふうに位置づけております。そういった事によっていろんな方から注目を浴び、川本で子育てっていうふうに思っていたんだかなというふうに考えております。

議 長 再質問ありますか。5番大畑議員。

5番
大畑議員 川本町には以前、川本町土地開発公社というのがありまして、それでこの東光台とか三島の玉繰、そういうところに宅地を造成致しました。ある部分の分譲が済みますと、両方ともストップしておりました。いわゆる塩漬け状態になっていた訳ですけれども、やはりこの住まいづくり応援事業ですか、住まいづくり応援事業をやった事によって、やはりそこに目が入ったのではないかなというふうに考えております。

次にですね、高校支援について、お伺いを致しますけれども、最初、今、大学2年生ぐらいになったんですかね、その子達が最初に4人ほどやって来ました。その後、4人、3人、4人ですか、という流れできた訳ですけれども、今の高校2年生、高校1年生あたりから、入学者が増えてきております。その要因は何だというふうに分析をしておられますか。

議 長 番外左田野まちづくり推進課長。

番外左田野
まちづくり
推進課長 全てを把握している訳ではございませんが、こちらの方の取り組みの中で感じておりますのは23年度からですか、コーディネーターを配置しまして、高校と一緒に生徒募集の活動をより一層強化して進めてきたところがございます。時にただ単に集めるというよりは、その集める時の考え方として高校と相談した中で、高校自体が魅力的な存在になって、それを発信する事によって高めようという事で積極的に都市部の塾であるとか、そういったところへの情報発信であるとか勧誘、また定住相談などのところにも積極的に出向いていった、そういったところが現れてきたんだかなと思っております。そういった現れとして、近年としましては郡内というか近郊からの入学者数も少し戻りつつあるように感じておりますし、先ほど議員が仰られたように県外からもたくさん来ておるんですが、当初は、やはり野球部の

番外左田野
まちづくり
推進課長

子が中心でしたが、だんだんカヌーを目指す子、吹奏楽を目指す子、そういったふうにだんだん特色のある幅広く人材が集まってきておるように思っております。また今年度、テレビとかでも取り上げていただいたり、うちの島根中央高校の活動が浸透してきたのではないかなと思っているのですが、都市部からでもたくさんの問い合わせがっておりますし、本年度の入学生についてはそういった事によって少し増えてくるのかなというふうに期待しておりますのでございます。

議 長

再質問ありますか。5番大畑議員。

5番
大畑議員

この3つについては可成りお金を使っております。やはり或る程度、お金を使って何らかのポイントポイントで対策を取っていかないと、なかなか前へ進まないというふうに感じる訳ですね。それで先ほど町長は川本町の課題についていろいろ仰いました。宇山課長のところで言えば収納率をどうして上げていくかとか、健康福祉課長のところは医療費の抑制とか国保会計とか役場ではやっておりませんが、総合事務組合でやっている介護保険料をどうやって下げていくか、これは日本でも高い方になっていますので、島根県ではナンバー1になりますけれども、日本でも高い方になっておりますので、非常に住みづらい環境になってきている訳ですから、それについてどうするかという対策は何らか考えていかなければならないというふうに思いますし、まちづくり推進課におきましても、ふるさと納税やっておられますけれども、浜田とは雲泥の差ですね。浜田も10何億です。半分6億のお金を使ったとしても6億の財源が生み出されている訳ですね。うちの場合だと700万ぐらい有ったでしょうか、だいたい300万ぐらいから400万ぐらいのふるさと納税の額だと思います。もし浜田みたいに6億あれば、職員が定年まで3人ぐらいの人間を雇える訳ですね、その1年間だけです。今、職員の数が足りないとかいうふうに何時だったですかね、高良議員の質問だったでしょうか、不足しているというような事を仰っておりましたけれども、そうやって財源を生めば何とか増やす事も出来るんで、この問題についてはいろんな特典ですか、そういうものも付けたらどうかという意見も議会の方から出ておりましたけれども、どうも取り組みが今ひとつ十分でないような気がしておりますし、それから後、産業振興課でもですね、有害鳥獣、これ上手くいっていませんですね、どちらかと言えば益々増えているような状況になっておりますし、近年はシカが見られるようになりました。サル・イノシシ・シカ、この3つの中で農業にいちばん深刻な状況を及ぼすのはシカなんですね、ですからそういうふうにならないように有害鳥獣の駆除も努めていかなければならないでしょうし、産業振興で雇用の場を増やしていかなければならない。そういうふうないろんなその問題がある訳ですけれども、第5次総合計画にしても、今回の川本版総合戦略ですか、総合戦略にしてもですね現在の場所がある訳です。それで将来を目指すものが向こうにある、

5 番
大畑議員

そこには橋を架けなければならない、長い橋だといっぺんには架けられませんが、その間にはやはり橋脚というものをうっていかないと橋は繋がっていかない訳ですから、ポイントポイントでマッチした政策を如何に出していくかという事がやはり大事になってくる訳でございます。今、私がこの川本町の中で課題というのはいろいろありますけれども、先ほども言いましたように金さえあれば片付く問題もあるし、金出しても片付かない問題というのがあります。そういうのを全部トータルで考えて今やらなきゃ一番力を入れてやらなきゃいけないというのは、やはりエゴマの増産だと思います。せっかくエゴマと言えば川本という、この間も全国放送で世界ふしぎ発見ですか、エゴマ川本町というのが出てくる訳です。私の兄が埼玉に住んでおりますけれども、それを見たんでしょねメールがきておりまして、これで川本の活性化を図ったらどうかというメールがきておりましたけれども、現状で言えば活性化を図るような生産量にはなっておりません。それで私も改めてこれを、もっと知ろう町の予算を見たんですけれども、このエゴマの生産だと思っておりますけれども、これが産地育成の予算419万円なんですね。他にもいろんな分野からエゴマにまわる部分もあると思っておりますけれども、先ほど左田野課長が話をされたような住宅とかそういったものに比べると10分の1以下の予算しか付いていない訳です。これで農業振興というかエゴマの増産を図れと言われてもなかなか出来ないんじゃないかなと、この後、3人の方がこのエゴマについて質問をされるようでございます。私は農業の経験がありませんので、どこに問題点があるのかという事については農業経験されている方にお任せをしたいと思いますけれども、もう少し予算を付けたような形でやっていただきたいと思いますが、産業振興課長、今のエゴマの予算でエゴマの増産を図れるというふうにお考えでしょうか。

議 長

番外高良産業振興課長。

番外高良産業振興課長

失礼致します。エゴマの生産が始まりまして10年以上が経過致しました。これまでエゴマの振興については生産面積の拡大、それから生産者の確保という事に力を注いで、いろんな財政支援も含めて支援をして参りましたが、ご指摘のように急激に昨年来高まった需要には追いついていない状況にあります。今後、更なる後押しを進めていく必要があるというふうに捉えております。そういった中でいろんな面から支援を考えてエゴマの需給体制の確立というのは急務であるというふうに認識しております。

議 長

再質問ありますか。5番大畑議員。

5 番
大畑議員

町長でも良いですから、副町長でも良いですから、今の答弁を産業振興課長の答弁を踏まえてですね、今後のエゴマの増産について予算の拡大というのは考えておられるのでしょうか、どうなんでしょうか、お伺いします。

議 長

番外三宅町長。

番外
三宅町長

エゴマにつきましては、川本町は本当に追い風になっております。ここで活路を見出していきたいというような思いでおります。栽培面積もですね、今年15ヘクタールというところでございますが、早い時期にその倍に持っていきたいというような考えをしております、このエゴマの振興につきましてはそうした面からもしっかりとした予算も付けるよう努力して参りたいというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。5番大畑議員。

5番
大畑議員

町長のそういう答弁でございましたので、産業振興課長、しっかりと予算要求をしていただきたいと思えます。それから、この後、質問される方につきましてもですね、そういう答弁が出ておりますので、エゴマの振興策についてどんどん提言していただければというふうに思えます。だいたい言いたい事は申し上げましたので、最後に申し上げますけれども、町長いろいろ仰っておりますけれどもね、ひとは万人のためにとか、万人はひとりのためにとか、それからオール川本とかいうふうに仰っておりますけれども、それは誰もがそんな事は意識しているんです。その為には何をしなければいけないかという事が大事だという事になる訳でして、そのあたりのところをしっかりと押し進めていっていただきたいというふうに思えます。私、川本町役場に行きまして、最近いちばん変わったなと感じるのは「あいさつ」ですね。非常に反応良くあいさつをしていただきます。1階部分は良いんですけども、2階部分は1階部分に比べると反応が鈍いような気が致しておりますので、2階部分の課長さんもですね、部下の皆さんにしっかりと徹底をしていただきたいというふうに思えます。そして皆さん方をお願いしたいのは、政策のダムを持ってほしいという事なんです。今回、新しい交付金の予算が付いておりますけれども、これは時間が無かったという事いろいろあるんでしょうけれども、果たしてその3つで良かったのかなという気がしないでもない。この予算を付けて何が広がっていくのかという事をもう少し考えていただきたい、その為にはいろんな引き出し、政策というものをに入れて、この交付金があったらこの引き出しを開けてこの政策でいこうという体制づくりを皆さん一緒になってやっていただきたいという事をお願いしまして、この質問を終わりたいと思えます。

議 長

答弁良いですね。

(「はい、答弁は良いです。」の声あり)

以上で、1項目めの「川本町今後の課題について」の質問を終了します。

々

次に、2項目めの「財政状況と今後の展望を問う」に対する答弁をお願い

議 長

します。番外森川総務財政課長。

番外森川総
務財政課長

それでは、大畑議員の、「財政状況と今後の展望を問う」についてお答え致します。本町の財政基準の考え方でございますが、まず、町債については、平成21年に全面施行された地方公共団体の財政の健全化に関する法律により、地方公共団体の財政状況を明らかにする4つの統一的な指標、実質公債費率、実質赤字比率、連結実質赤字比率、将来負担比率の公表が義務づけられております。このうち「実質公債費比率」は、自治体の財政規模に対する公債費の割合に着目したものであり、財政の健全化を図る一つの指標とされております。この「実質公債費比率」は、これまでの健全化の取り組みの影響により、平成26年度決算では12.2%と前年度より3ポイント改善され、平成29年度には7.1%と年々改善される見込みですが、平成27年度に借り入れた起債の元金償還が始まる平成30年度以降は若干数値が上昇するものの、平成31年度には8.2%となる見込みでございます。この数値の健全化ラインは18%以下とされており、比較的健全な数値を維持できるものと考えております。

また、自治体の実質的な将来負債額の財政規模に占める割合を示す「将来負担比率」は、公債費や特別会計への繰出金、職員退職手当支給額等を合算した将来負担額から基金残高や交付税等の充当可能額を差し引いた実質的な将来負担額の自治体財政規模に対する割合を示すものであり、将来の財政を圧迫する可能性の度合いを表す指標でございます。

この数値の危険ラインは350%とされておりますが、本町の平成26年度決算数値における実質的な将来負担額がマイナスとなり、島根県下でも最も低い数値であります。平成27年度の借入地方債見込み額は、庁舎移転、デジタル防災行政無線等の大規模事業等の影響で、前年度決算額3億8,600万円の約4.5倍にあたる17億5,600万円であり、地方債現在高も12億程度の増加が見込まれます。また、基金については、平成29年度までは横這いとなるものの、平成27年度に借り入れた地方債の元金償還が始まる平成30年度以降は減少することが見込まれております。

次に基金については、基金残高の標準財政規模に対する割合を示す指標として「積立金現在高比率」や「財政調整基金現在高比率」、「減債基金現在高比率」等があります。本町では、財政調整基金・減債基金の現在高の標準財政規模に対する割合が、健全エリアと言われる30%以上を維持できるよう基金残高の管理を行っています。平成26年度60.5%、平成27年度見込みが55.7%と今後減少する見込みではありますが、引き続き健全エリアを維持するよう努めてまいりたいと考えております。

一方、財政構造の弾力化を示す経常収支比率は、平成26年度決算において96.5%で、県内市町村の平均を上回っており、財政構造の硬直化が続いておる現状でございます。このような状況でございますが、町の総合戦略に基づく人口減少対策等に積極的に取り組み、成果を上げていく必要がある

番外森川総務財政課長 と考えております。今後は必要な事業を取捨選択し、常に財政数値の現状を見極めながら、適切な財政運営に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

議 長 再質問ありますか。5番大畑議員。

5番大畑議員 これはあくまで私の個人的な考え方なんですけれども、地方財政を見る1つの指針として私は、地方債残高と基金残高というものを常に気にしております。そこでね、私が議員になった平成16年これは奇しくも前町長と同じ日でございますので、前町長時代という事で比較をさせていただきますけれども、前町長時代8年間で地方債残高30億ダウンというか減っております。それから基金残高8億増えております。大幅な財政の健全化に取り組まれた結果だというふうに思います。その背景には当時、夕張市が破綻するか地方の各市町村において地方財政の悪化というものがあまして、先ほど申された財政の4指標というものもその当時に出来たものだと思いますけれども、川本町が一番困ったのは実質公債費比率なんですね。それがだいたい酷い時に27、8%ぐらいあったんじゃないかと思っておりますけれども、最近になってようやく18%を切った、これは自由に起債が出来る最低ラインになる訳ですけれども、ここまで良くなってきておる訳ですけれども、この三宅町長3年間取り組まれた中で、これも徐々に増えておりました。増えておりましたというよりも好転してきておりました。地方債残高は32億ぐらいまで減っておりましたし、基金残高もピークの時には18億を超えていたと思います。26年度に減った要因というのは繰上償還をしておりますので、だから基金は減ったけれども地方債残高も減ったという事で財政的には好転しているというふうに見る事が私の基準からすれば出来る訳なんですね。ただ問題はこの27年度に大きな予算を組まれました。当然、有利な財源を使われているのは勿論なので、ひとつひとつについてはお聞きするつもりはございませんけれども、27年度の末の地方債残高はだいたいどの位になる見通しを立てておられますか。お伺いを致します。

議 長 番外森川総務財政課長。

番外森川総務財政課長 ご質問のございました平成27年度末の地方債残高の見込みでございますけれども、今年度新しく全国防災対策事業債が増えまして15の種類がございますけれども、合計致しますと44億1百万円の見込みでございます。

議 長 再質問ありますか。5番大畑議員。

5番大畑議員 前年度に比べると12億ぐらい増える見通しですね。それで先ほどの答弁の中で実質公債費比率には18を超える事は無いというふうに仰っております。

5 番 大畑議員 議 長	したけれども、それは大丈夫ですね。 番外森川総務財政課長。
番外森川総 務財政課長 議 長	現在の試算では超える事はないというふうには考えております。 再質問ありますか。5 番大畑議員。
5 番 大畑議員 議 長	それで基金残高、これについてお伺いしますけれども、基金残高を幾らぐ らい町として持とうというような目標額というのは持っておられますか。 番外森川総務財政課長。
番外森川総 務財政課長 議 長	基金残高につきましては、先ほどの答弁の中にもございました減債基金と 財調基金の30%をぐらいというのがございました。30%と言いますと、 町の標準財政規模の30%という事になりますと、標準財政規模が20億強 でございますので、6億から7億でございますが、町としましてはこの標準 財政規模の半分約10億円はですね、最低でも持つておく必要があるという ふうに考えております。 再質問ありますか。5 番大畑議員。
5 番 大畑議員	この辺が私の考えと違うところでございまして、先ほどなんですけど基準財 政規模っていうんですか標準財政規模というのか良く分かりませんが、 これも、これが川本町の場合、以前23億ぐらいというふうに私は思ってお りましたけれども、20億ちょっと。せめてこれだけの金額ぐらいは私は基金 として持つておくべきだというふうに考えております。私が何故こういう事 を考えるかといいますと、私、学校を卒業しまして松下幸之助さんに憧れま して、松下経営理念というものを非常に学びたいという事で、当時の松下グ ープですね、今のパナソニックですけども、松下グループの某企業に就職 を致しました。そこで毎週一回、松下経営理念を学ぶ会というのが、だいた い6時頃から1時間、毎週1回ありました。その中でいろんな事を学んだ訳 ですけども、その中で一番やはり印象に残っているのはダム経営をしなければ いけないという事。人材のダム、資金のダム、技術のダム、そういうも のを造った会社が生き残っていけるんだという事を強く教えられました。で すから基金というものは特に財政基盤の弱い町におきましては、何が起き てもそんなにビックリすることのないような規模で、私はもっていかなければ ならないと思っております。その金額が先ほど申しました基準財政需要額と いう事になる訳でございます。そこでちょっと離れた部分かも知れませ んけれどもお伺いをしますけれども、地方交付税がこの町に入ってきてお ります。

5番
大畑議員 だいたい18億から19億ぐらい毎年入ってきておる訳ですけども、いわゆる真水部分というのがありますね、ですから地方債残高には過疎債とかありまして、地方交付税で見てくれる部分とかがありますから、それは当然、借金の返済に充てなければいけないので、その真水部分というのは最近どうなっておりますか、お伺い致します。

議長 番外森川総務財政課長。

番外森川総務財政課長 ご質問のございました、その真水部分でございますけれども、平成23年度が約12億1千万。平成24年度が12億4千万。平成25年度が12億5千万。平成26年度で、ここでちょっと減少致しまして12億2千万、ここで2千1百万ぐらい減少しましたが、平成27年度につきましては、人口減少特別対策事業債が約1億2千万ぐらい入ってくる予定になりまして、そういう事もありまして13億約2千万ぐらいの前年対比で9千万ぐらい増える見込みとなっております。

議長 再質問ありますか。5番大畑議員。

5番
大畑議員 という事は、先ほど仰いました今の人口問題ですか、可成りそこのところにお金を突っ込まなければいけないという中で、増えている部分についてはやはり私の考えで言えば基金に回して欲しいという気があるんですね。以前、私が何ですかね、平成17、18年頃だったと思いますけれども、この時代、真水部分9億ぐらいだったというような気がしているんですけども、その当時に比べても2億か3億ぐらいは増えている訳で、その部分、この町の財政というのは緩やかになってきている訳なんですね。ですから切り詰めていけば私は基金の大幅とは言いませんが、漸増というのは毎年絶対に出来るんじゃないかなという気が致しております。そういう考えでございましたところにですね、今日の新聞ですけども、地方創生加速化交付金ですか、これ仮称のようですけども、これを政府が補正で組むという記事が載っております。総額で1千億円、ですから川本町に廻ってくるのは1千万ちょっとぐらいかな、1千万は超えると思いますけれども、これにつきましてもですね、これは補正ですから多分これは繰り越して使うような事になるんじゃないかなというふうに思いますけれども、これを見ますと配分対象は都道府県市区町村が地方版戦略に盛り込んだ事業、観光振興や移住促進、コンパクトな町づくりと先駆的なソフト事業が基本となる。事業継続の工夫や数字目標が明示されていれば商業施設の整備といったハード事業も含める事が出来る方向だというふうに出ております。川本町総合戦略ですか、それを10月に作成されました。当然、多くの多くの項目を書き込まれております。川本町の財源ではとてもそんなものが全部、取り組める訳がない。ただ、こういう交付金があった時に川本町の総合戦略に盛り込んでいますという事で請求と

5 番
大畑議員

どうか、事業費の要求は出来る訳ですから、そういうところも含めていろんな事を盛り込んで作成をされたと思うのですが、私はこの金額で今の継続しているいろんなものに回す事も私は出来るというふうに思っておりますので、そうした事も真剣に考えていただいて、余剰金というものを生み出していただきたいというふうに考える訳です。今日の新聞に、もうひとつちょっと興味深い記事が出ておりました、これは山陰中央の、昔の朝日で言えば「天声人語」にあたる場所ですけれども、この「明窓」というところでございます。これも松下幸之助さんの意見を紹介する形で出ているのですが、国を毎年10%ずつ積み上げていくと、その蓄えて50年、100年後には無税国家に近づくという発想なんですね。これは可成りもう30年ぐらい、松下幸之助さんが亡くなって20年、30年近く経ちますので、30年以上前に発想されたものだと思いますけれども、それをこの通りやっていたら今みたいな財政の硬直化と言いますか、日本の国の財政はここまで悪くならなかった。松下幸之助さんが私財を投じてお作りになった物に2つあります。1つはPHP研究所、もう1つは松下政経塾であります。松下政経塾を作られた時に私は、東京で関連会社に務めおりましたけれども、その時に社内でこれはどういう意味なのかという事を盛んに言う人が居られましたけれども、これは当時、田中角榮さんが日本列島改造を押し進めた、ちょっと後でございました。それで国の予算編成に国債というものが非常にたくさん使うようになった時期でした。それで松下幸之助さんは、こういう政治を続けていたら日本の国はダメになってしまう。優秀なやはり政治家を作らなければいけないという事で私財を投じて松下政経塾というのをお作りになった。ただ残念なのは、今、松下政経塾出身の国会議員っていうのは沢山居られますし、地方の首長もたくさん輩出されておりますけれども、その途中で選挙制度が変わってしまっていて、これはあくまでも私の考えなんですけれども、選挙制度が変わってしまっていて小選挙区制になってしまった。小選挙区制になってしまうとやはり自民対野党という事で、自民党の候補者の中に入っていく、松下政経塾の出身者が。それで殆どの方が民主党に流れてしまった。一時期、前に総理大臣をやった野田さんなんか松下政経塾の出身なんですけれども、一時期政権を奪ってしまったけれども、なかなか上手くいかなくてポシャってしまったという事がある訳ですけれども、そういう意味でお作りになって非常に先見性のある方だなという事は常々思っていたんですけれども、こういう発想をですね、少しずつお金を貯めていくという事がこの町にとっては大事な事じゃないのかなというふうに今日の新聞を見て思いました。自主財源に乏しい、この町ではですね、財政の健全化というのは常にもってチェックしながら事業を進めていかなければ、財政がちょっと悪化した時、或いは国の状況が変わった時には立て直す事が出来ない訳ですか、あと1分ですか、

(「はい」の声あり)

はい。

5番
大畑議員

ですから、そういう事をしっかりと次の世代に受け継いでいかれるようにきちんとした財政意識を持って今後も取り組んでいただきたいという事をお願いを申し上げます、私の質問を終わります。

議 長

以上で、2項目めの「財政状況と今後の展望を問う」の質問を終了します。

々

これをもちまして、大畑議員の一般質問を終了します。

々

ここで、暫時休憩を致します。10時40分より、会議を再開します。

(午前10時30分)